

卒業生からの寄稿

# 学生生活を振り返って

2008年度卒業 白木小百合(旧姓 牛山)

この度は愛知学院大学薬学部設置10周年まことにおめでとうございます。

大学に入学し初めての一人暮らしで名古屋での生活が始まり、最初はとても不安な毎日でした。そのなかで、入学式後のオリエンテーションで薬用資源学講座の井上先生が「バスで酔った時はアレルギーの薬を飲んでも効果があるんだよ」とおっしゃっていたのがとても印象的でした。今では当たり前の知識ですが、当時の私はこの言葉を聞いて、薬剤師ってこういうことも知っているのかと感激すると同時に、私も立派な薬剤師になりたいという意欲が湧いたことを今でも鮮明に覚えています。

私は研究室配属前である2年生の春休みから、佐々木先生の生体有機化学研究室でお世話になっていました。抗がん剤の耐性に関する研究に携わり、細胞の培養やプラスミドの作製、マウスを用いた実験など、田中先生や小幡先生が中心となって本当に色々教えて下さいました。実験の楽しさや筋道の立て方、うまくいかないときの解決方法など、後の大学院での研究生活にもつながる基礎的な考え方を学ぶことができました。研究室では個性的で面白い同期たちにも恵まれ、時には励まされながら、毎日を有意義に楽しく過ごすことができました。佐々木先生が常日頃おっしゃっていた研究の大変さ、素晴らしさはいつまでも忘れません。

私は少しでも疑問に思ったことは何でも解決しないと気が済まない性格で、実験以外でも授業で理解できなかったことは解決するまでとことん調べ、納得するまで先生に質問することもありました。とても迷惑な学生でしたが、多くの先生方には解決するまで付き合っ下さり本当に感謝しております。

現在は病院薬剤師になり、血液内科病棟の専任薬剤師として働き、がん患者さんへの服薬指導などの業務に携わっています。まだまだ学ぶべきことは沢山ありますが、学生時代に培った意欲や探究心、そして立派な薬剤師になるという初心を忘れずに、これからも仕事に励んでいきたいと思えます。

